

2020年度行動計画及び実績

						2021年3月末最終報告				
大項目	小項目	実施項目	行動計画	リーダー	担当部署	結果KPI (3月末時点)	KPI評価	項目評価	実績(中間段階からの進捗、重点取組み結果等) →課題抽出(終了の場合もあり)	
1. 独自性・優位性ある教育力の向上と内部質保証	(1)時代と社会の要請に応えるテクノロジスト育成教育の質の向上	1) 教学マネジメントを促進する体制の確立	① 教学マネジメント室の設置及び他の委員会等との関係確立	学長補佐 (教学マネジメント担当)	教学マネジメント室	総務課 教務課			○	・年間で23回の会議を招集し、教学改革計画の施策を検討した。結果は教務委員会へ共有し、代議員会の議を経て教授会に報告した。 ・教学マネジメント室会議の決定事項はその都度学長通信により全教職員へ情報発信した。 ・2021年度入学生用にDPと授業科目の関係を示すカリキュラムマップを作成した。
		2) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの明確化と共有	① ディプロマ・ポリシー(DP)を受けてカリキュラムポリシー(CP)を明確化		教学マネジメント室	各学科 教務課			○	・三つのポリシーとコースごとのエデュケーショナル・ポリシーを定めた。 ・カリキュラム改革が2022年度開始の為、DPは2021年度から、CPは2022年度から適用とすることを決定した。
			② 2021年度に向けたカリキュラム編成方針、カリキュラムのスリム化の方針等を決定		教学マネジメント室	各学科 教務課	改革後の対現行カリキュラムの科目数85%	85%	○	・2021年度はカリキュラム改革はせず、シラバスの達成目標を二段階表記とし、1年生のシラバスは新DP対応とした。 ・2021年度から100分授業、進級制度の導入を決定した。 ・2022年度提供科目数のスリム化を図り科目配当表を決定。
							カリキュラム改革後の実技系科目の比率60%	60%		
		3) AI、IoT等の新技術にも対応できる将来のテクノロジストを育成するためのカリキュラム改革	① 2021年度カリキュラム、時間割、シラバス作成(ナンバリング、実務家教員等を含む)		教務委員会	各学科			○	・2021年度は従前のカリキュラムとし、AI・情報システムコース設置に伴う配当科目の見直しを行った。 ・カリキュラム改革の結果に鑑みて総合機械学科を「情報メカトロニクス学科」に名称変更した。
			② 教養・共通教育の計画とカリキュラムへの反映(大学院含む)		教学マネジメント室	各学科 大学院			○	・カリキュラム改革による両学科共通の教養教育を確定し、全学に周知した。 ・大学院のカリキュラム改革に共通科目を配置した。
			③ FD研修の改善実施		FD・SD推進委員会	各学科	FSD研修会開催回数	5回	○	・FD研修では、コロナ禍で対応してきた遠隔授業の対応を授業見学に盛り込んだ。 ・FD研修で、データサイエンスについて共通認識の醸成を図った。
							FSD研修会出席率	100%		
							FD研修会開催回数	3回		
							FD研修会出席率	100%		
		4) 教学IRを活用した学修成果の可視化、アセスメント・ポリシーの明示と教育サポートシステムの充実	① アセスメントポリシー(ASP)の再検討		教学マネジメント室	各学科			○	アセスメント・ポリシーの見直しを行った。
			② 授業の評価、学修成果の可視化等の方針の策定(学習ポートフォリオ導入検討、ルーブリック導入検討を含む)		教務委員会	各学科			○	・学修成果の可視化を図るためのルーブリックの導入について検討した。 ・ルーブリックの2021年度試行に向け全学説明会の計画を立案した。 ・学習ポートフォリオの導入については、ホームルームで学習に関する振り返りとしてキャリアプランノートを活用することで対応していくことを決定した。
			③ 教育サポートシステムの充実		教務委員会	各学科			○	・休退学対策WGで、入学前課題について意見交換を実施、今後も関係委員会と連携し検討する。 【総合機械】 ・リメディアル教育: 新型コロナ禍のためスタート時期を4月から7月に遅らせて実施した。スタート時期遅れのためリメディアル取組みと数学の成績の関係性は把握できなかった。 課題は(1)教員からの度重なる呼びかけに応答しない学生の扱い、(2)教員間でのリメディアル教育への取り組みの温度差などである。 ・入学前課題: 数学・物理・英語・コミュニケーションの入学前課題の学生の取組みと入学後の当該授業の成績を紐付けて相関関係を統計的に調査した。結果、一定の相関性が実証された。統計的裏付けを得られたので、本年度の入学前課題スタイルを2021年度も継続していく。
			④ IRデータのフィードバックとDP、CP等のPDCA		教学マネジメント室	教務委員会、IR委員会等			△	・IRデータの共有を図った。(アンケート分析と休退学対策WG関係) ・IRデータの具体的な活用方針について今後検討を続ける。

2020年度行動計画及び実績

						2021年3月末最終報告				
大項目	小項目	実施項目	行動計画	リーダー	担当部署	結果KPI (3月末時点)	KPI評価	項目評価	実績(中間段階からの進捗、重点取組み結果等) →課題抽出(終了の場合もあり)	
		5) 魅力ある学科、コース、大学院等の展開	①各学科の魅力あるコースの展開		教学マネジメント室			○	・総合機械学科は、2021年度AI・情報システムコースのカリキュラムを決定した。 ・両学科共2022年度のカリキュラム改革開始に伴う特色ある科目(目玉となる科目)の選定を行った。	
			②大学院のコースの検討と設定及びカリキュラムへの反映		教学マネジメント室			○	・大学院では、2021年度からカリキュラム改革を実行するため、新たに系という概念を取入れ、カリキュラムを構築した。	
			③魅力ある学科の展開		教学マネジメント室			○	【教学マネジメント】 ・両学科共2022年度カリキュラム改革開始に伴い、主選考コースの設置を明確にした。 ・総合機械学科の名称変更を検討した。(申請・承認) 【総合機械】 ・4S:ミニオープンキャンパスに合わせる形で規模を縮小して計7回の4Sを実施した。4Sは工学の基本なので、継続していきたい。 ・Fゼミ: 新入生に向けた学修への取組みガイダンス、学科案内と、チームでの段ボールカート製作のプロジェクト型授業として再構築した。 ・学生PJサポート強化の仕組み構築: 新型コロナ禍で学生PJの活動自体が縮小されたので、2020年度は本取組みを見送った。	
	(2) 充実した就職支援と学生生活のサポート	1) 新担任制度や留学生、障がい者等、個別の対応強化及び支援制度の充実	①新担任制度の始動と学生間のピアサポートの確立		教学マネジメント室			△	・新担任制度の具体的な役割について検討し周知した。 ・ピアサポートの検討には着手できなかった。	
			②ふれあいルームと教職員の連携による支援の強化、悩みのある学生のサポートの充実		学生課			○	コロナ禍により、対面型とオンライン型のカウンセリングを併用して実施した。またドミトリの学生向けにアンケートを実施し、ストレス状況の把握に努めるとともに全学生向けに夏と冬の2回のアンケートを実施し、悩み等心的ストレスのある学生に対して、カウンセリングを行っている。	
			③障がいのある学生への支援体制の整備		学生課			○	研修会の参加や他大学の状況を鑑み、規程を制定した。今後は、支援体制の構築に向けた検討が必要である。	
			④在籍管理の強化: 在籍管理簿による月次チェック		学生課			△	10月から毎月実施。特に資格外活動を重点的にチェックした結果、在留資格に加え資格外が集う・旅券・健康保険等の基礎情報を掌握することができた。 再三にわたる呼びかけにもかかわらず在籍管理を履行しない特定の学生がおり、その学生が諸問題を抱えているケースが多いため、在籍管理の必須化を徹底することが課題である。	
			⑤「BJTビジネス日本語能力試験対策講座」の開講	教務長	学生課			△	学生の日本語能力に大きな開きがあり、能力の高い学生ほど定着率と満足度を得ることができたが、能力の劣る学生の底上げが十分できなかった。 今後、「日本企業への就職レベル日本語修得」等の明確な目標を設定し、ラディカルな実践講座へと改善を図る。	
		2) 経済支援制度の多様化による学生への支援の充実	①新たな修学支援制度実施に伴うものづくり大学独自奨学金制度の見直し		学生課			○	より多くの学生への支援を行うため、生活支援奨学金制度の見直しを行った。	
			②奨学金制度の周知方法の工夫、HP上での情報発信の充実		学生課			○	奨学金情報のメールでの周知やホームページへの掲載。 また、本学独自の奨学金だけではなく、地方自治体や団体による奨学金情報の情報収集を行い、情報提供をした。	
		3) キャリア育成の充実による学生のモチベーションと卒業満足度の向上	①社会人基礎力育成講座の開講		学生課			○	対面形式が望ましいカリキュラム内容のため、対面を検討したが、感染拡大が続く社会情勢を鑑み、すべてをオンラインで実施した。次年度以降は、対面若しくは、対面とオンラインの併用での実施を検討していく。	
			②就職セミナー開催・SPI試験対策		学生課	・就職率	97%	○	就職活動に対する意識付けのためにも、対面で実施することが望ましく、2教室に跨る形とはなったものの、すべてのセミナーを対面で実施した。	
			③就職力強化合宿の開催、企業研究会などの実施		学生課	・就職満足度	94%	○	合宿については、実施施設がコロナ対応により使用不可となったため、学内で強化セミナーに変更して実施した。企業研究交流会は、感染症対策のため、ブース数、実施時間帯を縮小しての実施となったが、例年を上回る企業の参加があった。	
	(3) 志願者の質の確保と安定的定員の確保	1) アドミッション・ポリシーの明示と共有	①アドミッション・ポリシー(AP)の明示、次年度入学試験に対応した修正・更新		入試課	学部315名見込 105%	○	○	AP修正案は入試委員会承認済。入学者数は定員確保見込。	
		2) 多様な入学試験の実施、学力の3要素をはじめ多面的な評価の推進	①現行入学試験の分析・見直し、次年度入試制度の設計・計画		入試課	800名見込 103%	○	○	次年度入試制度及び入試日程は確定済。	
			②学生募集要項等の作成、入学試験の実施		入試課			○	コロナ対策の上、入学試験を計画どおり実施。	
		3) 高校生対象イベント、オープンキャンパス等の充実	①オープンキャンパスの計画・実施、大学見学の受入れ		入試課	高3生312名 78%	△	△	オープンキャンパスは、3.5.7月を中止。6.8.9月はコロナ対策の上、開催。8月には開催日を追加。個別見学は毎日受入れ。	
			②各種進学ガイダンスへの参画、実習体験教室等の計画・実施		入試課	2,100名見込 70%	△	△	各種ガイダンスの多くが中止。資料送付、DM、バナー広告、メール等の広報媒体を拡充。女子向け実習体験教室は実施。	

2020年度行動計画及び実績

										2021年3月末最終報告			
大項目	小項目	実施項目	行動計画	リーダー	主担当部署	関連部署	結果KPI (3月末時点)	KPI評価	項目評価	実績(中間段階からの進捗、重点取組み結果等) →課題抽出(終了の場合もあり)			
		4) 出身高校へのフィードバック、高大連携等の充実	① 高校等への学校訪問及び出張講義等の実施 ② 埼玉高進研協議会及び工業系高大連携推進委員会等への参加、高校生インターンシップ等の受入れ、高校教員対象説明会の実施		入試課		2,600件見込 87%	△	△	高校訪問数は減少。緊急事態宣言中は、高校への資料発送拡充及び電話対応。			
					入試課			△	△	協議会等では中止。高校生インターンシップは希望に応じて受入れ。高校教員対象進学説明会は今年度は中止、次年度は6月に開催予定。			
2. 特色ある研究・社会貢献活動	(1) 産学官金連携した研究・教育	1) 共同研究等の研究活性化とその支援	① 行政、金融機関とのタイアップによる研究シーズのアピール	ものづくり研究情報センター長 学長補佐 (産学連携担当)	もの研		1件	△	○	1)-①オンライン彩の国ビジネスアリーナに出展			
			② HP、パンフレットによる共同研究等受入れの広報展開		もの研		48件	○	○	1)-②HP、パンフレットリニューアル完了 埼玉県経営者協会会報誌及び埼玉新聞連載(掲載者24名)			
		2) 就業者等社会人のための新たな教育の検討・実施	① 現場改善人材育成プログラムの実施		もの研	総合機械学科	4,663万円	○	△	2)-①センター内部で講師候補教員を交えての打合せに基づき2021年5月以降に実施予定			
			② 建設施工管理技術者研修プログラムの実施		もの研	建設学科	52件	○	○	2)-②11-12月で「建築生産入門」を実施(受講者39名)			
		3) 科学研究費等の獲得支援	① 科研費獲得支援のためのセミナー等の実施		もの研	各学科	1件	△	△	3) セミナー、不正防止研修済(10/7) eラーニング該当者全員受講済(10/7)			
		4) 知的財産の創出及び適切な活用	① 特許出願等の支援、出願費用予算確保		もの研		1件	△	△	4) 特許共同出願契約の締結(3/15) 2021年度予算確保済			
	(2) 社会・地域・国際貢献	1) 子ども大学、公開講座、リカレント教育等の継続	① 連携協定締結事業等の実施(子ども大学、公開講座等)	ものづくり研究情報センター長 学長補佐 (産学連携担当)	総務課	各学科	コロナによりイベントは中止。 10者連携協定年度内締結。	○	○	10者協定締結→完了。行田市への東屋寄贈 2021年度の開催検討(3月～)			
			② 単発開催事業の実施(講演会、ものづくり教室等)		総務課	各学科		○	○	実施: プログラミング教室、その他4件。 2021年度の開催検討(4月～)			
			③ その他事業の実施(市民大学等)		総務課	各学科		○	○	来年度の開催検討→検討中			
		2) 大学見学会、大学開放・貸出しの継続	① 施設使用料金の見直し		総務課				○	○	3/17の代議員会で審議後、規程改正予定		
			② 災害等の非常時における施設貸出基準の策定		総務課				○	○	感染症流行時における貸し出し基準を作成し、HPで周知済		
			3) 海外のものづくり人材育成プログラムの推進		① 新たな海外協力の可能性の検討(ミャンマー、タイ等)	総務課	各学科			×	×	コロナ禍で海外との交流中断	
	3. 大学運営基盤の強化	(1) 価値創造に向けたブランド広報	1) 入学から卒業までのPR効果の高い情報を提供する大学広報の実現	① 広報活動の分析に基づく大学広報の体系化と持続的実施	図書情報センター長 学長補佐 (広報担当)	総務課	各部門・学科	1) 大学通信19件+投げ込み8件=27件 2) 6件 3) 未	○	○	1) リリース候補リストの作成とリリースを実施した。 大学通信リリース19件(残1件)。 2) 報道機関への投げ込み8件に対して、掲載が6件。記者連携も深まっている。20周年リリースは除く。その他、県政記者クラブへ2件(ロゴデザイン制定、10者連携協定)。 3) 費用対効果検証は未着手		
				② 学内広報に向けた計画・立案および周知活動		総務課	各部門・学科	WGIにて進捗	△	×	広報委員会・WGを稼働させたが、「課題抽出および新たな広報手法の開発と実施」は完成していない。 WG増設により事業課題が拡散し、足並みやタイミングがずれるなど運営管理が難しい面があった。 インフラの整備により運用多忙で戦略的に活動できなかった。		
2) ブランド展開のための広報手法の開発			① 課題抽出および新たな広報手法の開発と実施	総務課			6件の取り組みにつき5件達成	△	△	VIルール化を年内をめどに実施→未完成。式典を機に提案する。 10月にはIOT NEWSLETTER、第2弾コンセプトブックを発刊、HP掲載し、教職員学生に冊子を配布する→完了。 ブランディング活動として周年ロゴ入り名刺の制作、メール署名の設定、学内周年ロゴ掲示(学食)などを年度内に実施→周年ロゴの掲示は実施計画中。 パワーポイントテンプレート配信(2021年2月)。			
			② 学内広報に向けた計画・立案および周知活動	総務課				△	△	業者との未解決事項は一部未解決。継続して業者とやり取り中。 学内展開はしているが、各部署へのレクは随時実施中。 意見収集や改善に手が付けられなかった。			
3) Webサイト、SNS等のデジタルメディアをメインとした広報活動の拡充		① リニューアルサイトの運営と全コンテンツ公開	② SNS運用開始と運営方針の周知	総務課			1) サイト新着450件(見込み)(昨年265件) 2) SNS1120件(見込み) 3) PV数143.4万件(見込み)(昨年123万件) 4) 直帰率56.2%(昨年41.8%)	○	△	係内の複数人での取材体制→インフラの整備により運用多忙で戦略的に活動できなかった。2021年度広報係内での体制整備が課題。 学内からの情報提供→Google使用で問題ない。 今後3か月に1回程度、広報から教職員へ情報提供を呼び掛ける→呼びかけている。 関係者にとどまらない新規フォロワーを増やすためには攻めの発信が必要であり、今後の運用について年度内から検討を始める→未着手			
			③ サイトへの集客施策立案	総務課					×	×	SNSや大学通信、ポスターでのサイト誘導以外の施策は未着手。		

2020年度行動計画及び実績

								2021年3月末最終報告				
大項目	小項目	実施項目	行動計画	リーダー	担当部署	関連部署	結果KPI (3月末時点)	KPI評価	項目評価	実績(中間段階からの進捗、重点取組み結果等) →課題抽出(終了の場合もあり)		
		4) 高校生、高校教員、卒業生、保護者、企業等のステークホルダーに対する広報活動の強化	①ターゲット別PR施策構築および実施		総務課	各部門・学科	4件	△	△	対高校生以外では企業向け(地域連絡協議会、教育研究推進連絡協議会)への広報動画3件制作。保護者、卒業生、高校教員に対するアプローチ未着手。		
		5) 20周年記念事業の推進	①実施計画に基づく事業等の実施		経営戦略会議常任委員会	広報委員会	1)満足度未測定 2)メディア14件(埼玉新聞、日刊工業新聞、大学通信、北海道新聞、埼玉読売新聞、日刊建設工業新聞、日刊建設通信新聞、中日新聞、北国新聞、石川テレビ、ANネット、住宅産業新聞、プレハブ通信社、セメント新聞)	○	△	1)イベント開催中止で計測できず。 2)目標達成し、引き続き20周年冠のリリース実施。懸垂幕(10月)→完了。 周年ロゴ掲示(12月)→予算との兼ね合いで中止。 図書情報センター内大学展示スペースの2021年3月オープンによる周年特別展示→完了予定。 20周年式典へ向けた実施プログラム、それに伴う広報プランの検討を始める→20周年特設サイトの開設、予算優先でのコンテンツ確定。		
(2) 内部質保証、改革を進める組織力向上と人材育成	1) 組織目標の合意形成・決定手法の確立	①会議の運営方法の見直し	①会議の運営方法の見直し	総務課長	戦略会議常任委員会	総務課 教務課			○	常任会、代議員会の規程改正により、決定手続きを明確化		
		②行動計画の周知	②行動計画の周知		戦略会議常任委員会				○	常任会、教授会等を通じて周知済み		
		③経営戦略会議の活用	③経営戦略会議の活用		戦略会議常任委員会				○	大学の運営に関する課題を随時、常任会で議論		
	2) 教員・職員の業績評価の確立及び適正な運用	①行動計画と教職員の目標管理との整合	①行動計画と教職員の目標管理との整合		総務課					△	事務職員は実施済	
		①生産性向上、業務改革への取組(法改正への対応、出退勤ルール等)	①生産性向上、業務改革への取組(法改正への対応、出退勤ルール等)		総務課					○	100分授業に対応した働き方として、就業規則等を改正し、教員の裁量労働制及び事務職員のシフト制を導入	
	4) SD(FSDを含む)等、教職員の研修体制の整備、向上	①適切なFSD研修の実施	①適切なFSD研修の実施		総務課 教務課					○	年間計画を策定し、大学改革等のテーマで計画どおり実施	
		①年度行動計画の実施、評価、次年度行動計画の作成	①年度行動計画の実施、評価、次年度行動計画の作成		経営戦略会議常任委員会					○	中長期計画に基づく行動計画の作成とフォロー実施 2021年度行動計画の作成	
	6) ガバナンス・コードの作成	①ガバナンスコードの作成	①ガバナンスコードの作成							○	ガバナンス・コード作成完了	
		(3) 持続可能な財務力と施設の向上	1) 学納金及び補助金の確保、寄付金収入の受入増		①学納金の安定的確保の取組	①学納金の安定的確保の取組	経営戦略会議常任委員会					○
	②補助事業等の採択に向けた対策の検討と実施				②補助事業等の採択に向けた対策の検討と実施	経営戦略会議常任委員会					○	一般補助、改革総合支援事業及び遠隔授業のための整備等の補助金獲得に取組み、当初の目標を達成。
③寄付金等の受入促進	③寄付金等の受入促進			経営戦略会議常任委員会					△	コロナ禍で寄付募集未実施 コロナ禍による学生生活支援のための寄付募集実施		
2) 適正な人件費比率の確保及び一般経費の支出抑制	①財務状況の把握と分析(経年比較)		①財務状況の把握と分析(経年比較)	総務課					○	財務状況の分析を行い、学内共有を図った。財務状況をもとに、2021年度の予算削減案を策定し、予算案に反映。		
	②関係機関への経営相談の実施と施策への反映		②関係機関への経営相談の実施と施策への反映	総務課					△	コロナ禍で相談未実施、上記により、施策検討は開始		
3) 施設・設備修繕の中長期計画の策定・実行	①当年度計画工事の実施		①当年度計画工事の実施	総務課					○	製造棟の空調、電話設備及び受水槽ポンプ更新済み		
	②次年度以降、中長期修繕計画の見直し		②次年度以降、中長期修繕計画の見直し	総務課					○	次年度の計画策定済		
4) 防災・危機管理・法令順守のための体制の整備拡充	①危機管理体制の整備(水災、感染症、情報セキュリティ等)	①危機管理体制の整備(水災、感染症、情報セキュリティ等)	総務課					○	感染症マニュアルの作成、情報セキュリティ体制及び規程の制定			

評価(○ 実施済み、△ 実施中、× 未実施)